

# 飛騨市民病院経営強化プラン

(令和5年度～令和9年度)

## 令和6年度 実施報告書



令和7年10月27日

国民健康保険 飛騨市民病院

## 目次

1. はじめに	1
2. 令和6年度決算の状況	3
3. 具体的な取組みの実施内容及び数値目標	5
4. 経営強化ガイドラインの視点における取組み及びまとめ	11
5. 「点検・評価・公表等」について	12

## 1. はじめに

飛騨市民病院経営強化プラン（以下、経営強化プラン）は、「持続可能な地域医療提供体制を確保するための公立病院経営強化ガイドライン」（令和3年度（2021年度）総務省公表）に基づき、「役割・機能の最適化と連携の強化」「医師・看護師等の確保と働き方改革」「経営形態の見直し」「新興感染症の感染拡大時などに備えた平時からの取組」「施設・設備の最適化」「経営の効率化等」の6つの視点から検討を行い、時代の転換点となる令和5年度（2023年度）から令和9年度（2027年度）を対象とした持続可能な地域医療提供体制を確保するための地域に寄り添う病院の将来像及び改革の方向性を示しております。

飛騨市民病院の診療圏である「高原郷」（飛騨市神岡町と高山市上宝町及び高山市奥飛騨温泉郷）において、飛騨二次医療圏内でも突出して高齢化の加速と人口減少による医療需要に変化が生じていることや、常勤医師を始めとする医療職種の確保、更には令和9年度（2027年度）で築37年となる施設の老朽化への対応を経営強化プランにおける主要な課題として挙げています。そして、引き続き、当地域に必要な一次、二次救急の体制維持に加え、地域に寄り添う回復期機能、医療依存度の高い長期療養及び在宅医療、更にはプライマリ・ケア、慢性疾患のケアの役割を担っていくために、当院が目指す姿と経営強化プランにおける取組みの柱を次のとおりとしております。

### 【飛騨市民病院の目指す姿】

#### 「地域に寄り添う地域包括医療・ケアの拠点」

- 地域包括医療ケアを実践し、医療と介護、福祉、保健、そして生活（コミュニティ）との連携拠点を目指します

#### 「やりがいと働きやすさを兼ね備えた職場環境」

- 職員が互いに認め尊重し合い、やりがいと働きやすさを兼ね備えた職場環境を目指します

#### 「新たなステージへ向けた健全経営」

- 時代の転換点となる令和7年（2025年）以降も病院経営を持続するため経常収支均衡を目指します

### 【経営強化プランにおける取組みの柱】

当院の目指す姿を実現するための重点課題として、「地域包括医療・ケアの実践」「地域に寄り添うプロフェッショナル人材の涵養」「新たなステージを見据えた収支バランスの最適化」を取組みの柱として経営強化を図っていきます。

経営強化プラン2年度目である令和6年度（2024年度）の経営強化プランに基づいた取組み状況等についてとりまとめましたのでご報告いたします。

経営強化プランの進捗状況のうち、経営強化プランに掲げた数値目標は達成率を示し、これらを達成するための取組みに対する施策の達成度は下記の評点に基づき評価を行いました。

#### 【取組みに対する評点】

区分	評価の内容
S	目標を十分に達成し、期待を上回る成果がある
A	目標は概ね達成している
B	目標に向け取組んでいるが、目標は達成できていない
C	取組みがなされていない、目標達成と大きく乖離している

## 2. 令和6年度決算の状況

令和6年度における市民病院事業収益は、前年度対比95百万円減、計画対比56百万円不足の14億80百万円となりました。令和6年度診療報酬改定における給与引き上げ等の政策誘導によって診療単価は向上したものの、入院患者数及び外来患者数の減少により医業収益が前年度対比26百万円減、県補助金や他会計補助金等の低下により医業外収益が前年度比29百万円減等、その他特別利益が前年度比40百万円減により、大きく減収しています。

一方で、継続的な材料費や電気料金などの物価高騰が続いており、経費は前年度程度に抑えられましたが計画対比34百万円超過しています。更に、人事院勧告による給与改定に伴い人件費の大幅な上昇が重なり、給与費は前年度対比58百万円増、計画対比59百万円超過、令和6年度診療報酬改定では賄いきれないほどコストが増加しています。

結果として、令和6年度の事業損益は1億60百万円の損失を計上しました。収入の多くが公定価格である病院において非常に厳しい経営環境となっており、全国の多くの病院が赤字経営に陥っています。医療業界全体として、経営安定化のための対策が急務となっています。

### 【収支計画（収益的収支）】

(単位：百万円)

		令和5年度	令和6年度		前年度対比	計画対比
		2023年度	2024年度			
		決算	計画	決算		
収益	市民病院事業収益	1,575	1,536	1,480	▲95	▲56
	医業収益	1,209	1,243	1,183	▲26	▲59
	入院収益	629	686	618	▲11	▲68
	外来収益	459	438	452	▲7	14
	その他医業収益	121	118	113	▲8	▲5
	医業外収益	326	293	296	▲29	3
	特別利益	40	0	0	▲40	0
	市民病院事業費用	1,607	1,549	1,672	65	123
費用	医業費用	1,515	1,494	1,586	71	93
	給与費	814	813	872	58	59
	材料費	126	135	138	12	4
	経費	431	395	430	▲1	34
	減価償却費	140	147	140	▲0	▲7
	その他	4	3	6	2	3
	医業外費用	65	55	68	3	13
	特別損失	28	0	18	▲10	18
収支	医業損益	▲306	▲251	▲403	▲97	▲152
	経常損益	▲45	▲13	▲175	▲130	▲162
	事業損益	▲33	▲13	▲192	▲160	▲179

## 【飛騨市がんばれふるさと応援寄付金（ふるさと納税）】

地域医療を支える「人づくり」を目的とした財源として、令和2年度から飛騨市がんばれふるさと応援寄付金事業の一つである「飛騨市民病院による地域医療を支える人づくりに関する事業」により、市民病院を応援していただいております。寄附金は、研修医・学生が一定期間居住する住宅の維持・整備や研修環境の充実、里山ナースに繋がる学びへの支援など、関連する各種事業に活用しております。

令和6年度では、持ち運びが可能で救急患者さんなどの迅速な初期評価を行える「タブレット型超音波画像診断装置」の導入資金に活用させていただきました。

(写真) タブレット型超音波画像診断装置 (救急室)



### ○これまでにふるさと納税を活用した事業

年度	事業内容
令和3年度	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 研修医・学生用パソコン (6台)</li><li>・ 高度救急処置訓練人形</li></ul>
令和4年度	<ul style="list-style-type: none"><li>・ Web会議用個室ブース</li><li>・ 大型テレビ会議システム</li></ul>
令和5年度	<ul style="list-style-type: none"><li>・ AI機能を搭載した電子内視鏡システム</li><li>・ 経皮ペースング機能付き除細動器</li><li>・ 卓上型超音波診断装置用マイクロコンベックスプローブ</li><li>・ 医師用デスクセット (医局及び研修医室)</li><li>・ 訪問診療等車両 (2台)</li></ul>
令和6年度	<ul style="list-style-type: none"><li>・ タブレット型超音波画像診断装置 (救急室)</li></ul>

### 3. 具体的な取組みの実施内容及び数値目標

#### 【重点課題Ⅰ 地域包括医療ケアの実践】

地域包括医療ケアの拠点として、地域になくてはならない医療を提供し、子どもから高齢者までが自分らしく望む場所で安心して暮らせるための地域づくりを行っています。

項目	地域になくてはならない医療提供の維持	No	1
概要	救急医療、プライマリ・ケア、一般急性期医療、回復期医療、慢性疾患のケア、小児医療、看取りの医療体制を維持します		
実施内容	<p>24時間365日二次救急体制の維持をはじめ、地域に必要な医療提供体制を大学や協力病院から派遣の非常勤医、臨床研修医、専攻医の協力のもと確保しています。</p> <p>新型コロナウイルス感染症をはじめ感染対策を継続しつつ、入院及び外来、在宅の医療提供体制は維持しています。</p> <p>小児医療は、医療圏域の相互応援事業として、高山赤十字病院への小児科医師の派遣を継続し、アレルギー専門の小児科医として飛騨医療圏全体の小児医療の向上に貢献しました。</p> <p>一方で、令和6年度は外来患者数及び療養病床の入院患者数が減少しました。人口の減少及び医療需要の縮小に伴い、経営面からの医療提供体制の維持に関する課題がより大きくなっています。</p> <p>そのため、令和6年度には、地域住民を中心とした関係者による飛騨市民病院のあり方検討委員会を設置し、今後の人口減少と高齢化に伴う医療需要の変化、施設の老朽化に対するあり方について検討を行いました。将来にわたり当該地域で地域住民が安心して暮らし続けるためには安定的かつ継続的な医療提供体制が必要であり、持続可能な収支バランス、医療需要の変化への対応、魅力的な新たな病院の建設が必要であることを報告書としてとりまとめています。令和7年度以降、市の関係者ととともに施設の再整備に向けた検討を進めていきます。</p>		
評価	A		

項目	保健・福祉・介護と連携した予防医療の推進	No	2
概要	健康づくり活動、健診・人間ドック、リハビリテーションを推進します		
実施内容	<p>飛騨市地域包括ケア課との連携により、療法士を派遣して地域サポーター（シルバーリハビリ体操指導士、高齢者施設職員など）へのリハビリ実施指導、介護予防教室などを実施しました。また、継続して感染症やNST活動などの出前講座等を開催し、地域のニーズに応えるよう125件を数える健康づくり活動を実施しました。</p> <p>健康診断においては、令和7年度より膵臓がんドックを健診オプショ</p>		

	ンとして追加し、健診体制の拡充を図っています。	
評価	S	

項目	在宅療養体制の強化	No	3
概要	地域連携室の充実、在宅医療における医療介護情報連携の充実を図ります		
実施内容	<p>地域連携室を中心に関連施設との連携強化や入院時から在宅や施設への退院に向けての支援体制、退院後訪問等の医療介護情報連携を強化しています。令和6年度における入退院支援加算の算定割合は15.4%、地域包括ケア病床における在宅復帰率は87.0%と在宅療養に向けた支援が継続できています。</p> <p>“たんたかひだ”（医療介護連携協議会）ケア会議及び、“たんたかひだ”幹部会議をそれぞれ隔月で開催し、医療及び介護における地域の困難ケースの共有や対策を継続協議しています。</p> <p>在宅訪問診療及び在宅訪問リハビリも継続的な体制を確保し、古川地区の在宅クリニックとの連携や訪問看護ステーションとの連携も含め、連携強化型在宅療養支援病院として在宅療養体制を整備しています。</p>		
評価	A		

項目	ホスピタリティ推進と地域との信頼関係強化	No	4
概要	ホスピタリティの推進、地域との信頼関係の強化を図ります		
実施内容	<p>患者ご家族及び地域にとって信頼される病院であるために、接遇強化期間である「まごころキャンペーン」の開催や高原郷ケアネット（医療介護連携ネットワーク）の継続開催、医師会との連携協議をオンラインも活用して継続実施しました。</p> <p>令和6年度は、地域に開かれた病院づくりを地域住民と一緒に進めることを目的に、田家幸平氏、上出久行氏のホスピタルアート（写真展）、市政20周年の東町商店会のイベントとの同時開催による病院祭、飛騨市福祉ボランティア・フェスティバルへの参加、食事介助やワクチン接種問診票事前チェックなどの院内ボランティアの受入れ等を実施しました。</p>		
評価	A		

## 【重点課題Ⅱ 地域に寄り添うプロフェッショナル人材の涵養】

やりがいと働きやすさを兼ね備えた職場の中で確かな医療スキルとホスピタリティをもって地域に寄り添って働く人づくりを行っています。

項目	互いに認め尊重し合う職場風土改革	No	5
概要	職員同士で認め合う組織風土の形成に向けて、院内表彰制度の構築、ありたい姿と行動規範の規定、メンタルヘルスケア対策を実施します		
実施内容	令和6年度は「里山ナース院内認定制度」の修了者に認定書の授与や、飛騨市民病院職員の行動規範の推進活動とともに、早期発見と適切な対処をするために個別面談によるメンタルヘルスケアなど職場風土の形成を図りました。		
評価	A		

項目	職場環境と業務効率の改善	No	6
概要	タイムマネジメントを意識し、業務改善、ICTの活用やリモート業務環境の整備を行います		
実施内容	年次休暇の取得や時間外勤務時間の縮減、部署ごとの業務改善の取組みに加え、業務自動化ツール（RPA）や自治体専用デジタル化総合プラットフォーム「LoGo フォーム」及び行政専用チャットツール「LoGo チャット」を活用しており、自動化や情報共有による業務の効率化を図っています。		
評価	A		

項目	研修・人材交流を通じた人材育成の充実	No	7
概要	職員研修、人事交流、資格取得・維持の支援体制の充実を図ります		
実施内容	<p>令和元年度より看護師など医療人材の確保と育成を目的とした人材育成プロジェクトを立ち上げ、院内独自の教育カリキュラムである「里山ナース院内認定制度」を始動していします。令和4年度には『里山ナース®』を商標登録してブランド化したとともに、受講ポイント取得に必要な研修費用3万円／人を上限として支援し、専門資格取得の支援を行っています。令和6年度は、引き続き2nd-HYPERコースと新規採用職員等を対象とした1st-SUPERコースを開講するとともに、3rd-EXCELLENCEに地域住民と直接つながり健康増進活動等を行う「まちななかコース」、認定や特定行為の資格取得を目指す「よそいこかコース」を開講しました。</p> <p>また、令和6年度は認定看護管理者教育課程「ファーストレベル」1名、「セカンドレベル」1名、実習指導者研修や特定行為研修の教育支援を行いました。</p>		

評価	A	
----	---	--

項目	県・派遣元大学/病院・地元学校との関係強化	No	8
概要	総合診療科医師、初期研修医・専攻医、地域医療を学ぶ学生の受入れなどを積極的に行います		
実施内容	<p>令和5年度の常勤医師は、年度当初5名体制（常勤医3名、自治医科大学卒業医師：岐阜県派遣2名）でしたが、10月に1名の医師を新規採用できたため、年度末は6名体制となっています。</p> <p>非常勤医師は富山大学附属病院や特定医療法人財団五省会西能病院の協力により25名の応援を得て15診療科の体制を維持し、富山大学附属病院や高山赤十字病院等からも日当直医師の応援を得て、救急医療体制を維持しています。また、専攻医を枚方公済病院から2名（各4か月）受入れができ、初期臨床研修医の地域医療研修では9病院から43名、延べ1,123日、常勤換算で3.1人相当を受け入れることができました。充実した研修プログラムに加え、令和2年度に供用開始された研修医住宅が非常に好評で研修医同士の交流の場にもなっています。</p> <p>『大学から求められる病院』を目指し平成24年度に開始した「神通川プロジェクト®」とM2地域配属実習は、富山大学の医学生7名（うち3か月の長期実習2名）、延べ239日間、岐阜大学の医学生1名、延べ25日間の研修を実施しました。研修受講者が研修医として当院を選択するケースも増えています。なお、「神通川プロジェクト®」事業は、岐阜県から地域医療確保事業費補助金として2,981千円の交付を受けています。</p> <p>看護師は、採用活動の成果がでてきているものの、看護師不足かつ看護師の高齢化が進んでいる状況となっています。採用活動を積極的に行うとともに、中部学院大学から看護学生の臨地実習の受入れ、また、学生との交流を目的とした、医療系の進学を目指す高校生たちを迎えてメディカルハイスクールの開催、看護師を目指す飛騨高山高校生への病院見学会の開催、中学生への職場体験の実施、更には地元の企業展への参加など職業ガイダンスを実施しました。</p>		
評価	S		

### 【重点課題Ⅲ. 新たなステージを見据えた収支バランスの最適化】

高原郷及びその周辺地域の未来の姿を見据え、職員の経営意識の向上を図りつつ、病院機能にあった投資判断、収支の改善に取り組み、健全な経営体質づくりを行っています。

項目	持続可能な経営管理体制の推進	No	9
概要	部署別目標管理制度の質向上、診療報酬請求の適正化とともに、投資対効果、投資計画の見える化、防災対策・BCPの見直しを行います		
実施内容	<p>経営強化プランで掲げた取組みに対し、部署及び担当者が積極的に経営と医療の質の向上に参画するために、部署目標設定を行い、全職員が病院目標全体会議で共有・評価・改善を図りました。</p> <p>診療報酬請求の適正化に向けて、診療報酬項目のモニタリング体制を構築しています。令和6年度診療報酬改定では、生活習慣病指導管理料の算定開始、医療DX推進体制整備加算の取得、協力対象施設入所者入院加算などへの対応、マイナンバーカード保険証の利用促進（利用率70%達成）を行いました。</p> <p>設備投資は、照明のLED化、外来トイレの洋式化などの設備面の整備も計画的に進めています。</p> <p>災害対策は、偶数月に防災訓練、奇数月に会議を交互に開催し、災害対策委員会による対策の強化を図っています。</p>		
評価	A		

項目	病棟等医療機能・内容の継続的見直し	No	10
概要	医療需要にあわせて地域包括ケア病床の活用推進、外来専門診療科の継続的見直しを行っていきます		
実施内容	<p>当院の急性期病床、地域包括ケア病床、療養病床といった異なる病床機能を有効活用するため、平日朝には毎日、病床管理会議を実施し、各患者の状態等に応じて入院時の病床を選択しています。</p> <p>また、地域の高齢者ニーズの増大に対応して、令和7年1月より一般病棟の病床数を急性期病床34床から8床へ縮小し、地域包括ケア病床20床を40床へ増床しました。地域の高齢者を支える体制をより充実する再編となります。</p> <p>外来専門診療科は、非常勤の派遣医師が担当しています。得意分野をお知らせすることにより集患対策を図り採算性の確保を図る一方で、医療需要・医療ニーズの変化に応じて、大学医局と引き続き現況を共有し、採算性を考慮した非常勤医師の診療体制について継続的に見直しを行っています。令和7年3月末に心臓血管外科の体制を縮小しました。</p>		
評価	A		

項目	収益に見合った人員配置	No	11
概要	医療需要を意識した採用計画の策定と対応を行っていきます		
実施内容	<p>地域における医療需要は今後減少が見込まれているため、中長期的視点をもって採用判断を行っていく必要があります。</p> <p>職員数は医師が1名増となりましたが、会計年度任用職員の看護師が1名減となっています。</p>		
評価	A		

項目	材料費・経費のコスト削減	No	12
概要	材料費及び経費のコスト削減・抑制を行います		
実施内容	<p>継続的に採用薬の見直しを行い、先発医薬品からジェネリック医薬品への切り替えを進め、ジェネリック医薬品使用率は、令和6年度は98%で継続的に高い水準を維持しました。</p> <p>一方で、医薬品や診療材料などの材料費は材料費の値上げ等により材料費比率は上昇しています。</p> <p>令和6年度は照明のLED化を実施し電気代の抑制を図りました。光熱水費や燃料費等は高止まりし、医業収益に対する経費比率は計画を大きく上回っています。今後も、外部環境の影響要因に加え、空調設備や熱源設備の更新等の大規模な修繕による支出が見込まれていることから、継続的にコスト低減及び抑制を図っていく必要があります。</p>		
評価	B		

【数値目標】

		令和5年度	令和6年度		前年度対比	達成率
		2023年度	2024年度			
		決算	計画	決算		
重点課題Ⅰ	救急搬送受入れ応需率(%)	93%	95%	97%	4%	102%
	紹介患者数(人)	903	840	985	82	117%
	初診患者数(人)	5,402	3,300	3,796	-1,606	115%
	新入院患者数(人)	771	820	882	111	108%
	保健予防活動件数(件)	164	116	125	-39	108%
	在宅復帰率(地域包括)(%)	81%	80%	87%	6%	109%
	在宅訪問診療件数(件)	293	200	228	-65	114%
	在宅訪問リハビリ件数(件)	2,593	2,600	2,388	-205	92%
	患者満足度(入院)(%)	76%	85%	93%	18%	110%
	患者満足度(外来)(%)	64%	70%	69%	6%	99%
重点課題Ⅱ	時間外勤務時間数(時間)	12.3	8.2	11.6	-0.7	71%
	専門 認定資格取得数(人)	1	2	4	3	200%
	外部人材(人数)(人)	89	48	86	-3	179%
	外部人材(日数)(人)	1,401	1,460	1,339	-62	92%
	医師数(人)	5	6	6	1	100%
	看護師数(人)	37	42	36	-1	86%
重点課題Ⅲ	薬剤師数(人)	2	3	2	0	67%
	経常収支比率(%)	97%	99%	89%	-8%	90%
	医業収支比率(%)	80%	83%	75%	-5%	90%
	入院患者数(人/日)	59	62	54	-5	86%
	外来患者数(人/日)	239	220	230	-9	105%
	入院単価(円)	29,197	30,109	31,583	2,386	105%
	外来単価(円)	7,904	8,200	8,076	173	98%
	給与費比率(%)	67%	65%	74%	6%	89%
材料費比率(%)	10%	11%	12%	1%	93%	
経費比率(%)	36%	32%	36%	1%	88%	

## 4. 経営強化ガイドラインの視点における取組み及びまとめ

### (1) 役割・機能の最適化と連携の強化

地域の医療と介護、福祉、保健、そして生活（コミュニティ）との連携拠点「地域包括医療・ケアの拠点」の役割を担い、当地域になくはならない医療として、二次救急をはじめとした救急・急性期機能（急性期病床）に加え、地域密着の回復期機能（地域包括ケア病床）、医療依存度の高い長期療養・慢性期機能（療養病床）及び在宅医療、更には外来機能としてプライマリ・ケア、慢性疾患のケアを提供しています。地域に寄り添い、子どもから高齢者までが自分らしく望む場所で安心して暮らせるための地域づくりを目指しています。

当院が位置する飛騨医療圏の急性期医療の中心的役割を担う、高山赤十字病院と久美愛厚生病院や富山大学附属病院等とは、急性期機能について連携しています。前述のとおり、令和6年度はこれまで検討を重ねてきた病棟機能について、当地域の医療需要の変化に合わせて、急性期機能中心の病棟から回復期機能中心の病棟へ転換を図り、令和7年1月より、回復期病棟54床（うち急性期機能8床、回復期機能40床、休床6床）、慢性期病棟27床の計81床（6床休床）としました。

### (2) 医師・看護師等の確保と働き方改革

医師・看護師等の確保と働き方改革は重点課題として掲げ、前述のとおり、医師・看護師等の確保、働き方改革に努めています。

### (3) 経営形態の見直し

現状は飛騨市の直営施設として地方公営企業法の財務規定等のみを適用しています。今後も地域医療を維持確保していくため現状の経営形態を維持していきます。ただし、他の行政区域や広域での連携も含めた更なる経営強化に向けた経営形態の継続的な検討を進めます。

### (4) 新興感染症の感染拡大時などに備えた平時からの取組

感染症の感染拡大時は、病棟構造上の問題から確実なゾーニングができず、通常の一般医療を提供しながら積極的な感染症の入院患者を受け入れることは難しいため、第二種感染症指定医療機関である久美愛厚生病院や基幹病院である高山赤十字病院等と連携しながら回復期の患者の受け入れを行い、地域の一般医療を維持しています。

感染防護具等の物資の在庫管理を適切に行うとともに、専門人材の確保、育成、クラスター発生時の対応方針の策定や陽性者が発生した場合のマニュアルの職員への周知等、更なる院内感染対策の徹底及び有事における職員個々の対応について、感染症対応への意識と知識の向上を図っています。

## (5) 施設・設備の最適化

持続的な地域医療提供体制を確保するために飛騨市民病院のあり方検討委員会を設置し、今後の人口減少と高齢化に伴う医療需要の変化、施設の老朽化を踏まえ、病院のあり方や適切な規模について検討を行いました。地域住民を中心とした関係者により構成された委員会では、将来にわたり当該地域で地域住民が安心して暮らし続けるためには安定的かつ継続的な医療提供体制が必要であり、持続可能な収支バランス、医療需要の変化への対応、魅力的な新たな病院の建設が必要であることを報告書としてとりまとめました。医療需要や医療従事者の確保状況等を踏まえ、病院のあり方や適切な規模について市の関係者とともに検討を進めていきます。

また、ICTを活用した業務の効率化や病院内の情報連携を進めるとともに、マイナンバーカードの健康保険証利用（オンライン資格確認）の利用促進や電子処方箋への対応などを進めています。

## (6) 経営の効率化等

地域の人口動態に沿った患者数の適切な確保、診療単価の維持・向上を図り、高原郷及びその周辺地域の未来の姿を見据え、職員の経営意識の向上を図りつつ、病院機能にあった投資判断、収支の改善に取り組み、健全な経営体質づくりを行っています。

しかし、令和6年度の医業収益は患者数の減少により減収したことに加え、費用の急激な高騰により、経常収支比率は89%と大幅な悪化となりました。経営状況の悪化は全国の公立病院も同様の環境・状況に見舞われています。地域になくてはならない医療機能の維持ができるよう、市民に信頼される安全・安心な医療サービスの継続に努力してまいります。

## 5. 「点検・評価・公表等」について

ガイドラインでは、経営強化プランの実施状況について、有識者や地域住民等の参加を得て設置した委員会等に諮問するなどにより、評価の客観性を確保し、概ね年1回以上点検・評価を行い、その結果を公表することとされています。

当院では、外部委員を含めた「外部評価委員会」を設置し、年1回、経営強化プランの取り組み状況の点検及び評価を実施して、ホームページへ掲載し公表します。

## <委員構成>

自治会区会長（神岡町、高山市上宝町、奥飛騨温泉郷）、飛騨市民病院を守る会代表、  
医師会代表、介護関係者、病院関係者、市役所関係者（総務部長、市民福祉部長） 等

以上